

## 名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	解剖学Ⅱ ( AnatomyⅡ )	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	糟谷 圭吾
学科	柔道整復科	授業	講義	総時間 (単位)	46 ( )	開講区分	1学期
コース	I部・II部	形態				曜日・時限	月、水曜日 151教室

**【授業の学習内容】**

柔道整復学の基礎となる人体の生命現象と正常機能をおこなうにあたって必要とされる人体の正常な構造の理解は疾患の治療の上で必要不可欠である。特に神経系、内分泌系、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等の生命維持に不可欠な機能がいかなる構造によって可能となっているかの概念を習得し、本授業終了時には人体の正常な構造について説明ができるようになる。※実務者経験 1994～1996 歯科医療研修振興財団 臨床研修課程を修める。 1996～歯科医師として臨床業務に従事。 1998～2000 歯学部付属病院に所属する。主業務として中央手術室における全身麻酔管理および外来病棟（有病者歯科）における 全身管理業務に従事。

**【到達目標】**

人体解剖学の基本的体系を習得し、人体の正常構造について習得する。進化や発生の過程で人体が形成されたことを説明できる。神経系、内分泌系、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等の各種機能をおこなうにあたっての人体の構造を体系的に説明できる。

授業計画・内容

1回目	神経系の区分と特徴、神経組織、灰白質、白質、神経節、核、根
2回目	中枢神経の区分、脳室系、髄膜と脳脊髄液
3回目	脳 各部の形態と機能
4回目	脊髄の区分と伝導路
5回目	脳神経 ① I～VI
6回目	脳神経 ② VII～XII
7回目	脊髄神経 ① 頸神経叢
8回目	脊髄神経 ② 腕神経叢 ①
9回目	脊髄神経 ③ 腕神経叢 ②
10回目	脊髄神経 ④ 腰神経叢
11回目	脊髄神経 ⑤ 仙骨神経叢
12回目	脊髄神経 ⑥ 陰部神経叢
13回目	自律神経系 1学期定期試験範囲のまとめ
14回目	1学期定期試験
15回目	1学期定期試験解説

準備学習  
時間外学習

前もって講義範囲の教科書本文を熟読し疑問点を明確にする。講義および配付資料を補足・充実させ、知識の整理をすること。学習内容に関して不明な点あるいは疑問点があれば、担当教員に質問し、補って下さい。

評価方法	定期試験 (100%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	定期試験 (100%) にて到達度を評価する。
------	-------------	---	-------------------------

受講生へのメッセージ

正常な人体の構造を学ぶ解剖学は柔道整復師として必須項目である。臨床の場面で不可欠の知識となるため、十分な理解が望まれる。当該範囲は複雑多岐にわたるが、着実に学習して欲しい。毎回の講義が膨大のものとなるため予習、復習は必須条件である。

**【使用教科書・教材・参考書】**

教科書：全国柔道整復学校協会監修 岸 清・石塚 寛編 「解剖学」医歯薬出版  
 F.H.マティーニ・M.J.ティモンズ・M.P.マッキンリ著 井上貴央監訳 「カラー人体解剖学」西村書店

## 名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	解剖学Ⅱ ( AnatomyⅡ )	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	糟谷 圭吾
学科	柔道整復科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	46 ( )	開講区分	2学期
コース	I部・II部					曜日・時限	月、水曜日 151教室

**【授業の学習内容】**

柔道整復学の基礎となる人体の生命現象と正常機能をおこなうにあたって必要とされる人体の正常な構造の理解は疾患の治療の上で必要不可欠である。特に神経系、内分泌系、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等の生命維持に不可欠な機能がいかなる構造によって可能となっているかの概念を習得し、本授業終了時には人体の正常な構造について説明ができるようになる。※実務者経験 1994～1996 歯科医療研修振興財団 臨床研修課程を修める。 1996～歯科医師として臨床業務に従事。 1998～2000 歯学部付属病院に所属する。主業務として中央手術室における全身麻酔管理および外来病棟（有病者歯科）における 全身管理業務に従事。

**【到達目標】**

人体解剖学の基本的体系を習得し、人体の正常構造について習得する。進化や発生の過程で人体が形成されたことを説明できる。神経系、内分泌系、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等の各種機能をおこなうにあたっての人体の構造を体系的に説明できる。

授業計画・内容

1回目	1学期学習範囲の復習と感覚器 導入部
2回目	表皮、真皮、皮下組織、皮膚に付属する角質器
3回目	皮膚腺、皮膚のまとめ 筋紡錘、腱紡錘、関節など
4回目	眼球の構造、光受容器と網膜、視覚路 神経系復習
5回目	眼瞼、涙器、眼筋 外耳、中耳、内耳
6回目	聴覚器のまとめ 平衡器 平衡覚路と聴覚路および平衡覚中枢と聴覚中枢
7回目	2学期定期試験
8回目	2学期 定期試験解説
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	

準備学習 時間外学習  
前もって講義範囲の教科書本文を熟読し疑問点を明確にする。講義および配付資料を補足・充実させ、知識の整理をすること。学習内容に関して不明な点あるいは疑問点があれば、担当教員に質問し、補って下さい。

評価方法	定期試験（100%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	定期試験（100%）にて到達度を評価する。
------	------------	--	-----------------------

受講生へのメッセージ  
正常な人体の構造を学ぶ解剖学は柔道整復師として必須項目である。臨床の場面で不可欠の知識となるため、十分な理解が望まれる。当該範囲は複雑多岐にわたるが、着実に学習して欲しい。毎回の講義が膨大のものとなるため予習、復習は必須条件である。

**【使用教科書・教材・参考書】** 教科書：全国柔道整復学校協会監修 岸 清・石塚 寛編 「解剖学」医歯薬出版  
F.H.マティーニ・M.J.ティモンズ・M.P.マッキンリ著 井上貴央監訳 「カラー人体解剖学」西村書店

## 名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	生理学Ⅲ ( Physiology Ⅲ )	必修選択	必修	年次	2	担当教員	糟谷圭吾
学科	柔道整復科			総時間	60	開講区分	1学期
コース	I部・II部	授業形態	講義	(単位)	(4)	曜日・時限	月曜日 152教室

### 【授業の学習内容】

柔道整復学の基礎となる人体の生命現象と正常機能およびその体系の理解は疾患の治療の上で必要不可欠である。特に神経系、内分泌系による調節機構(ホメオスタシス)、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等の生命維持に不可欠な機能についての概念を習得し、本授業終了時には各々の生理学的機能について説明ができるようになる。

※実務者経験 1994～1996 歯科医療研修振興財団 臨床研修課程を修める。

1996～歯科医師として臨床業務に従事。1998～2000 歯学部付属病院に所属する。主業務として中央手術室における全身麻酔管理および外来病棟(有病者歯科)における 全身管理業務に従事。

### 【到達目標】

人体生理学の基本的体系を知り、人体の正常機能についての原則を習得する。進化や発生過程で人体が形成されたことを説明できる。神経系、内分泌系による調節機構(ホメオスタシス)、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等について網羅的に説明できる。

### 授業計画・内容

1回目	循環の生理学 心臓の構造と基本的性質の内容を理解し説明できる。	
2回目	心電図 不整脈 心臓のポンプ機能の内容を理解し説明できる。	
3回目	血管系 各血管の構造と働き 血圧 リンパ管系の内容を理解し説明できる。	
4回目	循環の調節 神経系調節 体液性調節 局所循環 脳脊髄液循環 の内容を理解し説明できる。	
5回目	呼吸器の機能的構造 換気の仕組み 肺内圧と胸膜腔内圧 換気量と残気量 ガス交換の内容を理解し説明できる。	
6回目	酸素解離曲線 二酸化炭素の運搬 呼吸の周期性の形成 呼吸の異常の内容を理解し説明できる。	
7回目	消化器系の働き 消化管の運動とその調節の内容を理解し説明できる。	
8回目	消化液の分泌機序 消化 吸収 消化管ホルモンの内容を理解し説明できる。	
9回目	肝臓と胆道系 消化器系のまとめと総合演習の内容を理解し説明できる。	
10回目	代謝 生体の構成成分と栄養素 中間代謝とその調節 エネルギー代謝量の測定の内容を理解し説明できる。	
11回目	各種のエネルギー代謝 基礎代謝 睡眠代謝 労作時代謝 運動時のエネルギー源と代謝の内容を理解し説明できる。	
12回目	食事誘発性産熱反応 体温の生理的変動 体内における熱の産生の内容を理解し説明できる。	
13回目	熱放散の物理的しくみ、調節の生理的しくみ 体温の調節 うつ熱 発熱 気候馴化の内容を理解し説明できる。	
14回目	1学期講義の総括を行う。1学期定期試験	
15回目	1学期定期試験解説 1学期講義の総括	
準備学習時間外学習	(目標①)前提:この授業を受けるには、生理学的知識の羅列的暗記のみならず、当該学習項目についての深い考察が必要である。 (目標②)当該学習項目と関連する解剖学、運動学等の関連領域についての理解を深める。 (目標③)当該学習項目に関する領域の国家試験問題について正答を得ることができる。	
評価方法	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格
受講生へのメッセージ	正常な人体の機能、機序を学ぶ生理学は柔道整復師として必須項目である。臨床の場面で不可欠の知識となるため、十分な理解が望まれる。当該範囲は複雑多岐にわたるが、着実に学習して欲しい。毎回の講義が膨大なものとなるため予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしない様にして下さい。	

【使用教科書・教材・参考書】「生理学」第4版 全国柔道整復学校協会監修 南光堂

## 名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	生理学Ⅲ ( Physiology Ⅲ )	必修選択	必修	年次	2	担当教員	糟谷圭吾
学科	柔道整復科			総時間	60	開講区分	2学期
コース	I部・II部	授業形態	講義	(単位)	(4)	曜日・時限	月曜日 152教室

### 【授業の学習内容】

柔道整復学の基礎となる人体の生命現象と正常機能およびその体系の理解は疾患の治療の上で必要不可欠である。特に神経系、内分泌系による調節機構(ホメオスタシス)、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等の生命維持に不可欠な機能についての概念を習得し、本授業終了時には各々の生理学的機能について説明ができるようになる。

※実務者経験 1994～1996 歯科医療研修振興財団 臨床研修課程を修める。

1996～歯科医師として臨床業務に従事。1998～2000 歯学部付属病院に所属する。主業務として中央手術室における全身麻酔管理および外来病棟(有病者歯科)における 全身管理業務に従事。

### 【到達目標】

人体生理学の基本的体系を知り、人体の正常機能についての原則を習得する。進化や発生の過程で人体が形成されたことを説明できる。神経系、内分泌系による調節機構(ホメオスタシス)、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等について網羅的に説明できる。

### 授業計画・内容

1回目	腎の構造と機能 腎の機能的構造 ネフロン クリアランス の内容を理解し説明できる。
2回目	糸球体ろ過量 腎血漿流量糸球体ろ過 尿細管における再吸収 の内容を理解し説明できる。
3回目	尿細管における分泌 尿の成分 排尿の機能 の内容を理解し説明できる。
4回目	内分泌の機能 内分泌腺とホルモンの定義 化学的組成 の内容を理解し説明できる。
5回目	ホルモンの分泌調節 血中運搬と代謝 ホルモンの作用機序 の内容を理解し説明できる。
6回目	ホルモンの種類と作用 視床下部のホルモン 下垂体のホルモン の内容を理解し説明できる。
7回目	甲状腺のホルモン 副腎皮質のホルモン 副腎髄質のホルモン の内容を理解し説明できる。
8回目	膵臓のホルモン 精巣のホルモン 卵巣のホルモン の内容を理解し説明できる。
9回目	性染色体とその異常 性分化 男性生殖器系の構成 の内容を理解し説明できる。
10回目	女性生殖器系の構成 月経周期 卵巣周期 妊娠と分娩 乳汁分泌 の内容を理解し説明できる。
11回目	骨の生理学 骨の構造 骨の形成と成長 骨の再吸収と再形成 カルシウム調節ホルモン 骨の病気 の内容を理解し説明でき
12回目	感覚の生理学 感覚器総論 感覚の一般的性質 体性感覚 内臓感覚 の内容を理解し説明できる。
13回目	感覚の生理学 感覚器各論 嗅覚 味覚 聴覚 視覚 の内容を理解し説明できる。
14回目	2学期講義の総括および2学期定期試験
15回目	2学期定期試験解説 2年時学習範囲の総括

準備学習時間  
外学習 (目標①)前提:この授業を受けるには、生理学的知識の羅列的暗記のみならず、当該学習項目についての深い考察が必要である。  
(目標②)当該学習項目と関連する解剖学、運動学等の関連領域についての理解を深める。  
(目標③)当該学習項目に関する領域の国家試験問題について正答を得ることができる。

評価方法  
1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(%)  
3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)

評価方法はGPA制度となります  
100～90点 S  
89～80点 A  
79～70点 B  
69～60点 C  
59点以下 F不合格

受講生へのメッセージ  
正常な人体の機能、機序を学ぶ生理学は柔道整復師として必須項目である。臨床の場面で不可欠の知識となるため、十分な理解が望まれる。当該範囲は複雑多岐にわたるが、着実に学習して欲しい。毎回の講義が膨大のものとなるため予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしない様にして下さい。

【使用教科書・教材・参考書】「生理学」第4版 全国柔道整復学校協会監修 南光堂

## 名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	運動学 ( K i n e s i o l o g y )	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	糟谷圭吾
学科	柔道整復科	授業	講義	総時間	46	開講区分	3学期
コース	I部・II部	形態		(単位)	( )	曜日・時限	月、水曜日 151教室

**【授業の学習内容】**

運動学ではヒトの身体運動の構造と機能を物理学等の原理を用いて系統的に学習する。その理解のためには骨学・筋学および関節靭帯学を含めた運動器系とこれを支配する神経系および外界の情報入力に関わる感覚器系の構造と機能を理解する必要がある。本講義では神経系と感覚器系の構造と機能を運動器系と合わせて学習し、総合的に運動についての理解を深める。 ※実務者経験 1994～1996 歯科医療研修振興財団 臨床研修課程を修める。 1996～歯科医師として臨床業務に従事。

1998～2000 歯学部付属病院に所属する。主業務として中央手術室における全身麻酔管理および外来病棟（有病者歯科）における 全身管理業

**【到達目標】**

人間の運動に関わる正常な構造と機能について理解を深める。

1. 運動機能の障害による異常運動を運動分析にもとづいて評価できる。
2. 主要な関節の運動形態と神経系の作用について説明できる。

授業計画・内容

1回目	運動学の目的、運動の表し方	16回目	乳幼児期の運動発達①
2回目	身体運動に関する力の概念	17回目	乳幼児期の運動発達②
3回目	仕事と力学的エネルギー	18回目	運動学習 運動機能と運動能力
4回目	骨、関節、骨格筋の構造と機能	19回目	運動技能学習の過程 学習曲線
5回目	神経細胞 末梢神経と中枢神経系	20回目	国家試験対策演習① 柔道整復師国家試験
6回目	運動感覚と運動の制御機構	21回目	国家試験対策演習② 理学・作業療法国家試験
7回目	反射の種類と中枢の部位別分類	22回目	3学期 定期試験
8回目	各種の反射(脊髄、脳幹、大脳皮質)	23回目	3学期定期試験の解説
9回目	2学期 定期試験		
10回目	2学期定期試験の解説および運動運動と共同運動		
11回目	姿勢の分類、重心、立位姿勢と制御		
12回目	機能肢位と姿勢のまとめ		
13回目	歩行周期、歩行の運動学的分析		
14回目	歩行と筋活動、エネルギー代謝		
15回目	異常歩行、神経組織の成熟		

準備学習  
時間外学習

前もって講義範囲の教科書本文を熟読し疑問点を明確にする。講義および配付資料を補足・充実させ、知識の整理をすること。学習内容に関して不明な点あるいは疑問点があれば、担当教員に質問し、補って下さい。

評価方法	定期試験（100％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	定期試験（100％）にて到達度を評価する。
------	------------	--	-----------------------

受講生への  
メッセージ

正常な人体の運動に関わる構造・機能を追求する運動学は、柔道整復師としての臨床の場面で、運動機能の障害による異常運動を分析し、評価する際、不可欠の知識となるため、十分な理解が望まれる。毎回の講義が膨大のものとなるため予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしない様にして下さい

**【使用教科書・教材・参考書】** 教科書：全国柔道整復学校協会監修 「運動学」 第3版 医歯薬出版

## 名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	高齢者・競技者の生理的特徴 ( Seniorcitizens and Athlete's Physiological Features )	必修選択	必修	年次	2	担当教員	糟谷圭吾
学科	柔道整復科			総時間	30	開講区分	3学期
コース	I部・II部	授業形態	講義	(単位)	(2)	曜日・時限	月曜日 152教室

**【授業の学習内容】**  
 柔道整復学の基礎となる人体の生命現象と正常機能およびその体系の理解は疾患の治療の上で必要不可欠である。生理学Ⅰ、Ⅲに引き続き、特に高齢者の生理学的特徴・変化及び競技者の生理学的特徴・変化についての概念を習得し、本授業終了時には高齢者や競技者の生理学的機能について説明ができるようになる。  
 ※実務者経験 1994～1996 歯科医療研修振興財団 臨床研修課程を修める。1996～歯科医師として臨床業務に従事。1998～2000 歯学部付属病院に所属する。主業務として中央手術室における全身麻酔管理および外来病棟(有病者歯科)における全身管理業務に従事。

**【到達目標】**  
 人体生理学の基本的体系を知り人体の正常機能についての原則を習得する。特に現代の高齢社会における高齢者の生理学的特徴・変化について具体的に説明できる。スポーツ人口が増加している中で、競技者の生理学的特徴・変化について具体的に説明できる。

### 授業計画・内容

1回目	細胞・組織の加齢現象 細胞の老化 について理解し説明できる
2回目	生体膜および細胞内小器官の変化 について理解し説明できる
3回目	生体内水分量の変化と加齢 について理解し説明できる
4回目	加齢による臓器機能の変化 神経系、運動器系、感覚器系、循環器系、呼吸器系、消化器系、皮膚 について理解し説明できる
5回目	高齢期特有の疾患・障害 について理解し説明できる
6回目	運動と加齢 歩行機能 について理解し説明できる
7回目	平衡機能 反応時間 について理解し説明できる
8回目	運動と身体発達 小児期から青年期の発育特性 について理解し説明できる
9回目	小児期から青年期の骨・筋肉系の発育と運動 について理解し説明できる
10回目	小児期から青年期の呼吸循環系機能と運動 について理解し説明できる
11回目	発育期の運動不足・過運動の影響 運動の習熟 について理解し説明できる
12回目	競技者の生理的特徴 スポーツおよびトレーニングによる適応 競技者の神経機構の特性 について理解し説明できる
13回目	姿勢調節 眼球運動と姿勢制御 について理解し説明できる
14回目	総復習を行い理解し説明できる
15回目	総復習を行い知識を修得する

準備学習時間  
 外学習  
 (目標①)前提:この授業を受けるには既習の生理学の知識が必須であり講義と関連する事項の予習・復習が必要である。  
 (目標②)当該学習項目と関連する解剖学、運動学等の関連領域についての理解を深める。  
 (目標③)当該学習項目に関する領域の国家試験問題について正答を得ることができる。

評価方法	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格
------	--	--

受講生へのメッセージ  
 正常な人体の機能、機序を学ぶ生理学は柔道整復師として必須項目である。臨床の場面で不可欠の知識となるため、十分な理解が望まれる。生理学Ⅰに引き続き、今後ますます増加する高齢者および競技者の生理学的特徴・変化を学習して欲しい。毎回の講義において生理学Ⅰの内容が前提になるため予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしない様にして下さい。

**【使用教科書・教材・参考書】**「生理学」第3版 全国柔道整復学校協会監修 南光堂

## 名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	病理学 I ( Pathology )	必修選択	必修	年次	2	担当教員	蒲 貞行
学科	柔整			総時間	45	開講区分	前期
コース	I 部・II 部	授業形態	講義	(単位)	(3)	曜日・時限	火曜日

### 【授業の学習内容】

担当教員は、臨床検査技師としての国家資格(1970年)、日本臨床細胞学会認定の細胞検査士資格(通番171号)、国際細胞学会認定資格(通番444号)、博士(保健学)の称号を持つ。1970年に愛知県対がん協会に入職後、愛知県がんセンター病院および愛知県総合保健センター臨床検査部で病理学、細胞診、血液学、生化学、生理学などの検査に従事した後、群馬大学大学院保健学研究科(2004～2015年:准教授)で病理学、細胞診断学の講義と実習に従事し、細胞検査士の養成に尽力した。その間に前橋東洋医学専門学校で病理学概論の講義も兼務した(2006～2014年)。その後群馬パース大学と中部大学の客員教授としての教鞭をとった。日本臨床細胞学会技師賞の受賞歴がある。病理学は医学の基礎を成す学問であり、その内容は深く広範である。担当教員の上記経験を踏まえ、医療人として修得が望まれる病理学的知識を教授する。授業内容は、国家試験に十分対応できる理解力の養成を主眼として教授する。

### 【到達目標】

医療人を志す者にとって、病理学は基本的な学問である。病理学概論では、広く疾病の分類と定義、原因と成り立ち、発生頻度、症状、死など様々な疾病の理解を深める。

### 授業計画・内容

1回目	病理学とは(1) [病理学の意義などを修得する] ～疾病の一般 [自覚症状、他覚症状、などを修得する]
2回目	細胞障害[退行性病変](1) [細胞萎縮、細胞質内の変性、などを修得する]
3回目	細胞障害[退行性病変](2) [細胞間質の変性、痛風、糖尿病、などを修得する]
4回目	細胞障害[退行性病変](3) [老化、壊死、アポトーシス、などを修得する]
5回目	細胞障害[退行性病変](4) [黄疸、Rh血液型不適合妊娠などを修得する]
6回目	循環障害(1) [充血、うっ血のいろいろ、などを修得する]
7回目	循環障害(2) [門脈圧亢進症、血栓と塞栓、などを修得する]
8回目	循環障害(3) [虚血と梗塞、浮腫、高血圧症、などを修得する]
9回目	中間試験
10回目	中間試験解説。// 進行性病変(1) [肥大と過形成、再生、化生、などを修得する]
11回目	進行性病変(2) [創傷治癒、骨折の治癒、異物処理、移植、などを修得する]
12回目	炎症(1) [炎症の5主徴、などを修得する]
13回目	炎症(2) [炎症のメカニズム、炎症の種類、などを修得する]
14回目	炎症(3) [耐性菌、サイトカイン、などを修得する]
15回目	炎症(4) [結核に関する知識を修得する]。 [細胞性免疫・液性免疫の関係図について修得する]
16回目	免疫とアレルギー(1) [細胞性免疫・液性免疫、などを修得する]
17回目	免疫とアレルギー(2) [免疫不全、自己免疫疾患(特にリウマチ、膠原病)、などを修得する]
18回目	免疫とアレルギー(3) [アレルギーの5分類、などを修得する]
19回目	腫瘍(1) [腫瘍の分類と主な例、癌と良性腫瘍の相違点、癌細胞の特徴、などを修得する]
20回目	腫瘍(2) [前癌病変、早期癌の定義、転移のいろいろ、などを修得する]
21回目	腫瘍(3) [腫瘍の原因、腫瘍随伴症候群などを修得する]
22回目	期末試験
23回目	試験解説

準備学習時間  
外学習

担当教員による配布テキストは、国家試験に対応できる知識の理解に配慮して準備された内容となっている。事前にその資料の一読が望ましい。また、授業後には、授業で担当教員が強調した点を中心に要点を整理し、国家試験問題の解答を試みるのも理解の習得に効果的である。

評価方法 1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	期末試験の成績をもとに評価する。当該期間に学んだ内容を国家試験レベルの問題として出題する。中間試験の得点率と期末時の試験の得点率の平均点で評価する。試験はマークシート形式で行う。
--	--	---

受講生へのメッセージ

人生、とくに医療人としての人生は生涯学びである。  
 私は、受講生の皆さんが「人生、日々一切が生命現象の探究であり、そのことを通して人間性を磨くことである」との思いを持って教授する。  
 ぜひ授業だけでなく、日常生活でのすべてに於いて、「いのちと人間の理解」につながる「学ぶ心」を身につけて頂きたい。

### 【使用教科書・教材・参考書】

病理学概論 (第2版) 医歯薬出版株式会社、担当教員による配布テキストおよび国家試験過去問集(Part 1&2)

## 名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	一般臨床医学 ( Medical Science Lectures )	必修選択	必修	年次	2	担当教員	齋藤 研
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	45	開講区分	通年
コース	昼間 I 部・II 部			(単位)	(3)	曜日・時限	土曜日 151教室

### 【授業の学習内容】

臨床の場で必要とされる、医療面接を含んだ診察の仕方についてトレーニングする。また、そこから得られる情報を的確に分析して、診断・診療に活かすことを旨とする。臓器別で系統的に疾患についての基本的知識を習得する。その上で症候学についても学習し、臨床症状から得られた情報をもとに鑑別疾患を挙げるなど、実際の診療に則した経験を積む。

※実務者経験：1984年中学校・高等学校教員免許取得。1995年医師免許取得し内科医として勤務する。

### 【到達目標】

的確な診察ができる。臨床症状から鑑別疾患を挙げるができる。重要疾患について、その概念・疫学・検査・治療などについて説明できる。

### 授業計画・内容

1回目	医療面接について理解し、習得できる。	16回目	神経診察について理解し、習得できる。
2回目	診察の仕方について理解し、習得できる①	17回目	神経疾患について理解し、説明できる①
3回目	診察の仕方について理解し、習得できる②	18回目	神経診察について理解し、説明できる②
4回目	診察の仕方について理解し、習得できる③	19回目	血液疾患・腎疾患について理解し、説明できる
5回目	検査・診断について理解し、習得できる	20回目	膠原病について理解し、説明できる
6回目	呼吸器疾患について理解し、説明できる①	21回目	免疫疾患・感染症について理解し、説明できる
7回目	呼吸器疾患について理解し、説明できる②	22回目	症候論について理解し、説明できる
8回目	循環器疾患について理解し、説明できる①	23回目	総復習を行い、16～23回までの授業内容を説明できる
9回目	循環器疾患について理解し、説明できる②		
10回目	消化器疾患について理解し、説明できる①		
11回目	消化器疾患について理解し、説明できる②		
12回目	内分泌・代謝疾患について理解し、説明できる①		
13回目	内分泌・代謝疾患について理解し、説明できる②		
14回目	総復習を行い、1～13回までの授業内容について説明できる		
15回目	総復習を行い、1～13回までの授業内容について前回よりも詳しく説明できる		

準備学習時間  
外学習

1年次で学んだ解剖学や生理学といった基礎医学の復習が必須です。授業時間外で各自与えられた課題をこなすための時間を確保する必要があります。各疾患について重要事項を各自ノートにまとめるといった学習法を推奨します。

評価方法

定期試験：90%、課題成果：10%

評価方法はGPA制度となります  
100～90点 S  
89～80点 A  
79～70点 B  
69～60点 C  
59点以下 F不合格

受講生への  
メッセージ

臨床医学の内容は多岐にわたるため、限られた授業時間数で習得するにはコツが必要です。まずは系統的に理解する、その上で記憶に残りやすい工夫をする(要点をまとめる、暗記しやすい覚え方を身につける)ことです。授業内に学習法についても指導していきたいと思えます。

### 【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版株式会社「一般臨床医学」改訂第3版



## 名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	外科学概論 ( Surgery )	必修選択	必修	年次	2	担当教員	原 順之
学科	柔道整復科			総時間	45	開講区分	2学期
コース	I 部・II 部	授業形態	講義	(単位)	(3)	曜日・時限	火曜日 152教室

### 【授業の学習内容】

外科学の概要を学び、解剖学・生理学・病理学・一般臨床医学の一部を融合しつつ、理解を深めます。講義方法は、柔道整復師国家試験における外科学概論部分からの出題と教科書の内容を照らし合わせつつ、それらを通して、前述の教科との、より深い内容の理解を目指します。

### 【到達目標】

(1) 一般目標: 外科的治療・基本的臨床手技・手術に関する知識を得るとともに、各種交通外傷に関する基本を理解する。

(2) 行動目標

① 創傷治癒機転とそれに影響を与える因子や熱傷・外科感染症の症状について説明できる。

② 腫瘍の分類および検査法や治療法および各種交通外傷について説明できる。

③ ショックおよびその際の心肺蘇生法を説明できるとともに、実施することができる。

④ 輸液・輸血の基本や消毒法および滅菌法の違いについて説明できる。

⑤ 麻酔・手術・移植・止血などの周手術における知識および注意点を説明できる。

### 授業計画・内容

1回目	外科学総論について理解し説明することができる。
2回目	外科学の概要について把握することができる。
3回目	損傷について理解し説明することができる。
4回目	熱傷、炎症、外科感染症について理解し説明することができる。
5回目	腫瘍について理解し説明することができる。
6回目	ショックについて理解し説明することができる。
7回目	輸液、輸血について理解し説明することができる。
8回目	外科学総論について総合演習を行うことができる。前半まとめ①
9回目	外科学総論について総合演習を行うことができる。前半まとめ②
10回目	消毒法、滅菌法について理解し説明することができる。
11回目	麻酔、手術について理解し説明することができる。
12回目	移植について理解し説明することができる。
13回目	出血、止血について理解し説明することができる。
14回目	外科学概論と解剖生理学について理解し説明することができる。
15回目	心肺蘇生法について理解し説明することができる。
16回目	外科学総論の後半まとめ① 総合演習することができる。
17回目	外科学総論の後半まとめ② 総合演習することができる。
18回目	頭部・顔面疾患(頭蓋底骨折・急性硬膜外/下血腫・慢性硬膜下血腫)について理解し説明することができる。
19回目	頭部・顔面疾患(意識障害・てんかん・脳腫瘍・クモ膜下出血)について理解し説明することができる。
20回目	胸部疾患について理解し説明することができる。
21回目	腹部疾患について理解し説明することができる。
22回目	乳腺疾患について理解し説明することができる。
23回目	外科学概論 試験とまとめ 総合演習することができる。

準備学習時間外学習 本講義においては、柔道整復師国家試験の内容を解説することとなります。そのため、その基礎となる生理学・解剖学・病理学・一般臨床医学などの分野の国家試験問題を極力理解するよう、日常的に心がけて下さい。

評価方法	1. 定期試験(%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100~90点 S 89~80点 A 79~70点 B 69~60点 C 59点以下 F不合格	定期テストにて知識・技能の到達評価を行う。 ・定期試験 100%
------	--	--	-------------------------------------

受講生へのメッセージ 外科学は、解剖学、生理学などの基礎科目の知識を必要とします。それらを理解した上で授業を受けると、より解り易いため、基礎科目をしっかり復習しておくことが望まれる。

### 【使用教科書・教材・参考書】

1. 南江堂「外科学概論」改訂第4版
2. 医道の日本社「国家試験過去問題集 柔道整復師用」
3. 医歯薬出版「一般臨床医学」改訂第3版

## 名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	整形外科学 ( Orthopedic Surgery )	必修選択	必修	年次	2	担当教員	山田 慎
学科	柔道整復科			総時間	45	開講区分	通年
コース	I部・II部	授業形態	講義	(単位)	(3)	曜日・時限	土曜日 152教室 実技室

### 【授業の学習内容】

運動器の正常な機能を学び、病的状態を知ることによって柔道整復師として適切に判断・治療できることを目指す。臨床現場の実際も交えながら進行する。

※実務経験：2003年5月～沖縄県立中部病院、2008年4月国立久米島病院、2010年4月亀田総合病院勤務。

### 【到達目標】

- ①運動器の基礎、診察法、検査法について理解し、説明できる。
- ②整形外科的治療法に関して理解し、説明できる
- ③骨・関節疾患の病態・特徴について理解し説明できる。
- ④スポーツ整形疾患について、理解し説明できる
- ⑤リハビリテーションについて理解し説明できる。

### 授業計画・内容

1回目	総論5(骨・関節損傷総論) + 各論骨盤・股関節C-1 について理解し説明できる ①
2回目	総論5(骨・関節損傷総論) + 各論骨盤・股関節C-1 について理解し説明できる ②
3回目	総論1(運動器の基礎知識)+各論体幹A-1(頸部) について理解し説明できる ①
4回目	総論1(運動器の基礎知識)+各論体幹A-1(頸部) について理解し説明できる ②
5回目	総論2(整形外科診察法)+各論体幹A-2(胸部) について理解し説明できる ①
6回目	総論2(整形外科診察法)+各論体幹A-2(胸部) について理解し説明できる ②
7回目	各論前腕・肘関節B-2、手関節B-4 について理解し説明できる ①
8回目	各論前腕・肘関節B-2、手関節B-4 について理解し説明できる ②
9回目	各論大腿・膝関節C-2 について理解し説明できる ①
10回目	各論大腿・膝関節C-2 について理解し説明できる ②
11回目	総論3(整形外科検査法)+各論体幹A-3(腰部) について理解し説明できる ①
12回目	総論3(整形外科検査法)+各論体幹A-3(腰部) について理解し説明できる ②
13回目	総論6.7(スポーツ整形外科総論+リハビリテーション総論) + 各論C-3下腿・足関節 C-4足・足趾 について理解し説明で
14回目	総論6.7(スポーツ整形外科総論+リハビリテーション総論) + 各論C-3下腿・足関節 C-4足・足趾 について理解し説明で
15回目	8 疾患別各論 E-G について理解し説明できる ①
16回目	8 疾患別各論 E-G について理解し説明できる ②
17回目	8 疾患別各論 A-D について理解し説明できる ①
18回目	8 疾患別各論 A-D について理解し説明できる ②
19回目	総論4(整形外科的治療法)+各論前腕B-3 について理解し説明できる ①
20回目	総論4(整形外科的治療法)+各論前腕B-3 について理解し説明できる ②
21回目	各論肩・肩甲骨B-1、手・手指B-5 について理解し説明できる①
22回目	各論肩・肩甲骨B-1、手・手指B-5 について理解し説明できる②
23回目	総復習を行い知識を修得することができる

準備学習時間外学習

教科書と学習する範囲の国家試験問題を確認する

評価方法

1. 定期試験(%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)

評価方法はGPA制度となります  
100～90点 S  
89～80点 A  
79～70点 B  
69～60点 C  
59点以下 F不合格

定期試験100%

受講生へのメッセージ

教科書に記載してあること以外に、現場での症例や、経験談など、現役の最前線で活躍するスポーツドクターの話をよく聞いてください。

### 【使用教科書・教材・参考書】

整形外科学 改訂第4版(南江堂)、補足プリント

## 名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	柔道整復の適応 ( Judo Therapy Adaptaion )	必修選択	必修	年次	2	担当教員	原 順之
学科	柔道整復科			総時間	30	開講区分	3学期
コース	昼間 I・II 部	授業形態	講義	(単位)	(2)	曜日・時限	木曜日 152教室

**【授業の学習内容】**  
 柔道整復師として業務に従事していくなかで、出会う患者は外傷だけではありません。柔道整復術の適応する外傷なのか、また、外傷か疾病かの判断について学びます。患者安全確保最優先の能力を身に付けます。

**【到達目標】**

- ①患者安全の確保を最優先にし、臨床的判断を修得する。
- ②柔道整復術適応の判断ができる。
- ③外傷に類似した疾患について判断できる。

### 授業計画・内容

1回目	柔道整復術の適否について理解し、説明できる
2回目	損傷に類似した症状を示す疾患について理解し、説明できる
3回目	血流障害・末梢神経損傷を伴う損傷について理解し、説明できる
4回目	脱臼骨折・外出血を伴う損傷について理解し、説明できる
5回目	病的骨折・脱臼、意識障害を伴う損傷について理解し、説明できる
6回目	脊髄症状のある損傷について理解し、説明できる
7回目	呼吸運動障害を伴う損傷について理解し、説明できる
8回目	内臓損傷の合併は疑われる損傷について理解し、説明できる
9回目	高エネルギー損傷について理解し、説明できる
10回目	医用画像・放射線の概要・X線装置の概要について理解し、説明できる
11回目	主要部位の一般撮影法について理解し、説明できる
12回目	CTの概要・画像特性、MRIの概要について理解し、説明できる
13回目	超音波画像装置の概要について理解し、説明できる
14回目	1～13回の総復習を行い、説明できる
15回目	柔道整復師の適応について修得する

準備学習時間外学習

- ①柔道整復理論に関連する内容について、理解を深めておくこと。
- ②授業時間外で各自与えられた課題をこなすための時間を確保する必要があります。
- ③各講義内容について重要事項を各自ノートにまとめるといった学習法を推奨します。

評価方法	1. 定期試験(90%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(10%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格
------	--	---

受講生へのメッセージ  
 臨床医学の内容は多岐にわたるため、限られた授業時間数で習得するにはコツが必要です。まずは系統的に理解する、その上で記憶に残りやすい工夫をする(要点をまとめる、暗記しやすい覚え方を身につける)ことです。授業内に学習法についても指導していきたいと思っております。

**【使用教科書・教材・参考書】**  
 教科書: 南江堂「医療の中の柔道整復」  
 南江堂「施術の適応と医用画像の理解」

## 名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	関係法規 ( Regulation )	必修選択	必修	年次	2	担当教員	嶋田 征矢
学科	柔道整復科			総時間	30	開講区分	3学期
コース	昼間 I 部・II 部	授業形態	講義	(単位)	(2)	曜日・時限	火曜日 152教室

**【授業の学習内容】**  
「柔道整復師法」を中心に法律の基礎、他の医療従事者の資格法、医療法、社会福祉関係法規、社会保険関係法規を学び、理解し修得する。  
(実務経験)  
平成28年～平成31年(令和元年)まで 整形外科、接骨院、介護施設に勤務令和元年度柔道整復師専科教員免許取得

**【到達目標】**  
柔道整復師を業とするにあたり、免許に必要な要件や手続きを理解し適切に行うことができる。法令違反となることなく、柔道整復師として活動することができる。医療人として他の医療系職種の資格範囲、業務内容を理解することでチーム医療の場で円滑にコミュニケーションや協業ができるようになる。

### 授業計画・内容

1回目	法の体系、インフォームドコンセント、リスクマネジメントについて理解し、説明できる
2回目	柔道整復師法の総則、免許について理解し、説明できる
3回目	柔道整復師法の国家試験、業務について理解し、説明できる
4回目	柔道整復師法の施術所、雑則について理解し、説明できる
5回目	柔道整復師法の罰則、指定登録機関(指定試験機関)、附則について理解し、説明できる
6回目	医療従事者の資格法について理解し説明できる①
7回目	医療従事者の資格法について理解し説明できる②
8回目	医療法について理解し、説明できる
9回目	社会福祉関係法規について理解し、説明できる
10回目	社会保険関係法規について理解し、説明できる
11回目	その他の関係法規について理解し、説明できる
12回目	柔道整復師法についてより知識を深め、修得する
13回目	医療従事者の資格法、医療法についてより知識を深め、修得する
14回目	社会福祉関係法規、社会保険関係法規、その他の関係法規についてより知識を深め、修得する
15回目	柔道整復師法、他の医療従事者の資格法、医療法、社会福祉関係法規、社会保険関係法規について説明できる

準備学習時間  
外学習

①基礎的な法律などの情報は新聞やテレビなどでも発信されていますので、興味を持ちましょう。  
②授業で学んだことを忘れないように、復習は欠かせない事。  
③自分なりに分かりやすくノートまとめをすること。

評価方法	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格
------	--	--

受講生へのメッセージ

将来、柔道整復師として業務するにあたり柔道整復師法を中心に、様々な法律に遵守しなければなりません。柔道整復師として働いていく中でも、国家試験でも重要な科目となってきます。授業だけではなく、自習をすることもお勧めします。

**【使用教科書・教材・参考書】**  
教科書: 医歯薬出版株式会社「関係法規」2021年版

## 名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	柔道整復学Ⅳ ( Judo TherapyⅣ )	必修選択	必修	年次	2	担当教員	山口 智一
学科	柔道整復科			総時間	90	開講区分	1学期
コース	I部・II部コース	授業形態	講義	(単位)	3	曜日・時限	月・水曜日 152教室

### 【授業の学習内容】

柔道整復師が実際に触れる下肢外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わる者として高度の医学的知識の習得が必要であることから、業務として扱う下肢外傷について理論を理解し、本講義修了時には各下肢外傷について説明ができるようになる。

\* 実務経験: 7年以上専門学校の教育現場に従事し、また接骨院の施術にも従事していた。

### 【到達目標】

柔道整復学で重要な下肢外傷の基本的な知識を修得するとともに、国家試験に必要な知識または臨床現場でも必要な知識を講義内に入れ、将来柔道整復師として業務するあたりその知識が発揮できるように習得させていく。

#### 【具体的な目標】

- ① 下肢外傷の概要が説明できる。
- ② 下肢外傷の症状が説明できる
- ③ 下肢外傷の整復法・固定法が説明できる。

### 授業計画・内容

1回目	2年生の学習範囲、講義の流れ、骨盤部の機能解剖、骨盤骨骨折を理解説明できる。
2回目	骨盤骨単独骨折、骨盤骨輪骨折について理解説明できる。
3回目	骨盤輪骨折、股関節部の機能解剖について理解説明できる。
4回目	大腿骨近位部の骨折について理解説明できる。
5回目	大腿骨近位部の骨折について理解説明できる。
6回目	大腿骨近位部の骨折について理解説明できる。
7回目	股関節脱臼について理解説明できる。
8回目	股関節部の軟部組織損傷について理解説明できる。
9回目	股関節部の軟部組織損傷について理解説明できる。
10回目	股関節部の軟部組織損傷について理解説明できる。
11回目	大腿部の軟部組織損傷について理解説明できる。
12回目	膝関節部の機能解剖について理解説明できる。
13回目	大腿骨遠位部の骨折について理解説明できる。
14回目	学習した内容の演習問題を行いより深い理解を習得する。
15回目	学習した内容を総復習し、より深い理解を習得する。

準備学習時間  
外学習

【予習】 事前に教科書を熟読し、わからない単語を調べておく。  
【復習】 配布した復習問題や配布資料の内容をまとめ理解を深める。

評価方法

1. 定期試験100(%) 2. 小テスト(%)  
3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)

評価方法はGPA制度となります  
100～90点 S  
89～80点 A  
79～70点 B  
69～60点 C  
59点以下 F不合格

● 定期試験100%で成績評価を行う。

受講生への  
メッセージ

柔道整復学は国家試験の中で最も出題数が多い科目で、臨床現場でも最も重要な科目となります。この科目が疎かになると今後の勉強等が大変困難となると思いますので、大変だと思いますがしっかりと勉強していきましょう。

### 【使用教科書・教材・参考書】

教科書: 柔道整復学理論編第6版(南江堂)、柔道整復学実技編第2版(南江堂) 配布資料

## 名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	柔道整復学Ⅳ ( Judo TherapyⅣ )	必修選択	必修	年次	2	担当教員	山口 智一
学科	柔道整復科			総時間	90	開講区分	2学期
コース	I部・II部コース	授業形態	講義	(単位)	3	曜日・時限	月・水曜日 152教室

### 【授業の学習内容】

柔道整復師が実際に触れる下肢外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わる者として高度の医学的知識の習得が必要であることから、業務として扱う下肢外傷について理論を理解し、本講義修了時には各下肢外傷について説明ができるようになる。  
\*実務経験:7年以上専門学校の教育現場に従事し、また接骨院の施術にも従事していた。

### 【到達目標】

柔道整復学で重要な下肢外傷の基本的な知識を修得するとともに、国家試験に必要な知識または臨床現場でも必要な知識を講義内に入れ、将来柔道整復師として業務するあたりその知識が発揮できるように習得させていく。

#### 【具体的な目標】

- ①下肢外傷の概要が説明できる。
- ②下肢外傷の症状が説明できる
- ③下肢外傷の整復法・固定法が説明できる。

### 授業計画・内容

1回目	大腿骨遠位部の骨折について理解説明できる。
2回目	下腿骨近位部骨折について理解説明できる
3回目	下腿骨近位部骨折について理解説明できる
4回目	膝関節脱臼について理解説明できる。
5回目	膝蓋骨骨折について理解説明できる。
6回目	膝蓋骨脱臼について理解説明できる。
7回目	膝関節部の軟部組織損傷について理解説明できる。
8回目	膝関節部の軟部組織損傷について理解説明できる。
9回目	膝関節部の軟部組織損傷について理解説明できる。
10回目	下腿部の機能解剖、下腿骨の骨幹部骨折について理解説明できる。
11回目	下腿骨の骨幹部骨折について理解説明できる。
12回目	下腿骨の骨幹部骨折について理解説明できる。
13回目	下腿骨の骨幹部骨折について理解説明できる。
14回目	学習した内容の演習問題を行いより深い理解を習得する。
15回目	学習した内容を総復習し、より深い理解を習得する。

準備学習時間  
外学習

【予習】 事前に教科書を熟読し、わからない単語を調べておく。  
【復習】 配布した復習問題や配布資料の内容をまとめ理解を深める。

評価方法

1. 定期試験100(%) 2. 小テスト(%)  
3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)

評価方法はGPA制度となります  
100～90点 S  
89～80点 A  
79～70点 B  
69～60点 C  
59点以下 F不合格

●定期試験100%で成績評価を行う。

受講生への  
メッセージ

柔道整復学は国家試験の中で最も出題数が多い科目で、臨床現場でも最も重要な科目となります。この科目が疎かになると今後の勉強等が大変困難となると思いますので、大変だと思いますがしっかりと勉強していきましょう。

### 【使用教科書・教材・参考書】

教科書:柔道整復学理論編第6版(南江堂)、柔道整復学実技編第2版(南江堂) 配布資料

## 名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	柔道整復学Ⅳ ( Judo TherapyⅣ )	必修選択	必修	年次	2	担当教員	山口 智一
学科	柔道整復科			総時間	90	開講区分	3学期
コース	I部・II部コース	授業形態	講義	(単位)	3	曜日・時限	月・水曜日 152教室

### 【授業の学習内容】

柔道整復師が実際に触れる下肢外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わる者として高度の医学的知識の習得が必要であることから、業務として扱う下肢外傷について理論を理解し、本講義修了時には各下肢外傷について説明ができるようになる。  
\*実務経験:7年以上専門学校の教育現場に従事し、また接骨院の施術にも従事していた。

### 【到達目標】

柔道整復学で重要な下肢外傷の基本的な知識を修得するとともに、国家試験に必要な知識または臨床現場でも必要な知識を講義内に入れ、将来柔道整復師として業務するあたりその知識が発揮できるように習得させていく。

#### 【具体的な目標】

- ①下肢外傷の概要が説明できる。
- ②下肢外傷の症状が説明できる
- ③下肢外傷の整復法・固定法が説明できる。

### 授業計画・内容

1回目	下腿部の軟部組織損傷について理解説明できる。
2回目	下腿部の軟部組織損傷について理解説明できる。
3回目	足関節の機能解剖、下腿遠位部の骨折について理解説明できる。
4回目	下腿遠位部の骨折について理解説明できる。
5回目	足根骨部の骨折について理解説明できる。
6回目	足根骨部の骨折、足関節部の脱臼について理解説明できる。
7回目	足関節部の軟部組織損傷について理解説明できる。
8回目	足関節部の軟部組織損傷について理解説明できる。
9回目	足・趾部の機能解剖、足根骨の骨折について理解説明できる。
10回目	足根骨の骨折、中足骨の骨折について理解説明できる。
11回目	趾骨の骨折、足根部の脱臼と軟部組織損傷について理解説明できる。
12回目	中足趾節関節、趾節間関節脱臼、足・趾部の軟部組織損傷について理解説明できる。
13回目	足・趾部の軟部組織損傷について理解説明できる。
14回目	学習した内容の演習問題を行いより深い理解を習得する。
15回目	学習した内容を総復習し、より深い理解を習得する。

準備学習時間  
外学習

【予習】 事前に教科書を熟読し、わからない単語を調べておく。  
【復習】 配布した復習問題や配布資料の内容をまとめ理解を深める。

評価方法

1. 定期試験100(%) 2. 小テスト(%)  
3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)

評価方法はGPA制度となります  
100～90点 S  
89～80点 A  
79～70点 B  
69～60点 C  
59点以下 F不合格

●定期試験100%で成績評価を行う。

受講生への  
メッセージ

柔道整復学は国家試験の中で最も出題数が多い科目で、臨床現場でも最も重要な科目となります。この科目が疎かになると今後の勉強等が大変困難となるとお思いますので、大変だと思いますがしっかりと勉強していきましょう。

### 【使用教科書・教材・参考書】

教科書:柔道整復学理論編第6版(南江堂)、柔道整復学実技編第2版(南江堂) 配布資料

## 名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	外傷の保存療法 (Determination of Trauma)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	米女 博司
学科	柔道整復科			総時間	15	開講区分	1学期
コース	I部・II部	授業形態	講義・演習	(単位)	(1)	曜日・時限	木・金曜日 実技実習室

### 【授業の学習内容】

定型的鎖骨骨折、肩鎖関節上方脱臼の診察及び整復法について学習する。  
 各外傷の模擬整復を行うにあたり、臨床に即した手順を踏んで模擬整復を行う。1、来院肢位の確認 2、発生機序の聴取 3、患部の確認 4、合併損傷の有無の確認 5、整復操作 6、整復の確認 7、合併損傷の再確認 授業ではそれぞれの外傷部位の局所解剖を確認し、どのような外力がどのように影響して、どのような外傷が発症するのかを考えながら模擬整復操作を行う。  
 授業で行うのは模擬整復であるが、出来る限り本物の外傷を扱っていることを考え、イメージしながら行うことが重要である。  
 (柔道整復専科教員免許取得教員)

### 【到達目標】

- ・外傷部位の局所解剖を理解する。
- ・模擬整復終了までの手順を理解する。
- ・定型的鎖骨骨折、肩鎖関節上方脱臼の模擬整復を行う際、患者への説明、助手への指示を行いながら整復操作に説明を加えながら整復出来るようになる。

### 授業計画・内容

1回目	鎖骨骨折と肩鎖関節脱臼の類似点、相違点を理解して診察及び整復操作が出来るようになる。	
2回目	鎖骨骨折と肩鎖関節脱臼の類似点、相違点を理解して診察及び整復操作が出来るようになる。	
3回目	肩関節脱臼 - 肩関節脱臼の診察の流れ、診察、整復操作について理解して出来るようになる。	
4回目	肩関節脱臼 - 肩関節脱臼の診察の流れ、診察、整復操作について理解して出来るようになる。	
5回目	上腕骨外科頸骨折 - 上腕骨外科頸骨折の診察の流れ、診察、整復操作について理解して出来るようになる。	
6回目	上腕骨外科頸骨折 - 上腕骨外科頸骨折の診察の流れ、診察、整復操作について理解して出来るようになる。	
7回目	上腕骨外科頸骨折 - 上腕骨外科頸骨折の診察の流れ、診察、整復操作について理解して出来るようになる。	
8回目	実技試験	
準備学習 時間外学習	実技授業でにクラスメイトと模擬整復操作練習が出来るように、各外傷部位の局所解剖、整復理論をしっかり復習すること。(局所解剖や整復理論を文字で理解することも大切であるが、実技授業では立体的視覚的に把握することが重要である。局所解剖や整復操作を描写するなどしてイメージ化する努力をする。)	
評価方法	実地試験(100%)出席・欠席数を加味して評価する	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格
受講生へのメッセージ	実技の授業は局所解剖を理解し、理論を理解して初めて出来るものである。基礎知識、理論の理解なしで実技を行うことは、一つのやり方をまるまる暗記することに過ぎない。各外傷の種々なケースにも対応していくためには局所解剖、柔整理論を理解し、考えながら実技を行う必要がある。常に本物の外傷を扱っているイメージで実技授業に臨んでもらいたい。	

### 【使用教科書・教材・参考書】

教科書:解剖学、柔道整復理論、柔道整復実技及び配布資料



## 名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	臨床柔道整復学Ⅰ ( Clinical Judo Therapy Ⅰ )	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	奥村 祐汰
学科	柔道整復科	授業	講義	総時間	90	開講区分	1学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部	形態		(単位)	(6)	曜日・時限	水曜日 1・4限 151教室

### 【授業の学習内容】

伝統医療である柔道整復術を、基礎医学に基づき、科学的思考から考察するためには、『なぜ』を考える思考が大切になります。教科書を暗記して覚えるのではなく、疾患や症状について考え、理解をすることが柔道整復師として患者さんに接する際に必要となります。本授業では上肢の骨折、脱臼、軟部組織損傷について自分の身体を用いて立体的に捉え、患者さんへ施術・説明ができるようにしていきます。  
(柔道整復師専科教員資格取得教員)

### 【到達目標】

柔道整復師の業務範囲を踏まえ、その適応を理解し、基礎医学に基づいた理論で柔道整復師の治療法について説明できる。

### 授業計画・内容

1回目	前腕部の解剖と機能、組織の復習、前腕部の骨折（橈骨骨幹部骨折）について説明できる
2回目	前腕骨骨幹部骨折（橈骨骨幹部骨折・ガレアジ骨折）について説明できる
3回目	前腕骨骨幹部骨折（尺骨骨幹部骨折・モンテギア骨折）について説明できる
4回目	前腕骨骨幹部骨折（モンテギア骨折・橈尺両骨骨幹部骨折）について説明できる
5回目	前腕部の軟部組織損傷（前腕コンパートメント症候群・腱交叉症候群）について説明できる
6回目	前腕部の軟部組織損傷（正中神経障害）について説明できる
7回目	前腕部の軟部組織損傷（橈骨神経障害）について説明できる
8回目	前腕部の軟部組織損傷（尺骨神経障害）について説明できる
9回目	手関節部の解剖と機能、組織の復習、前腕遠位端部骨折（橈骨遠位端部骨折の分類）について説明できる
10回目	前腕遠位端部骨折（コーレス骨折の発生機序・症状）について説明できる
11回目	前腕遠位端部骨折（コーレス骨折の合併症・整復法）について説明できる
12回目	前腕遠位端部骨折（コーレス骨折の固定法・後療法・続発症）について説明できる
13回目	1学期講義内容についてのワークを行い、より深い説明ができる
14回目	総復習し、1学期講義の総括について説明できる
15回目	総復習し、1学期講義の総括について説明できる

準備学習 時間外学習	<p>予習：柔道整復学理論編の該当単元を目を通してから講義に臨むこと。</p> <p>復習：講義ノートや講義内容、配布プリントをまとめることにより理解を深めること。</p>
---------------	--

評価方法	1. 定期試験% 2. 小テスト% 3. レポート% 4. 課題成果% 5. 授業態度%	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	筆記試験100%（状況により、小テスト・授業態度を考慮することがある）
------	--	---	-------------------------------------

受講生への メッセージ	<p>柔道整復学は国家試験の出題数も多く、重要な科目です。柔道整復学の出題範囲は広く、苦手意識がつくこともあります。イラストやシェーマを書いて立体的に考えていくことが習得するために重要です。わからないことや、疑問に思うことは担当教員まで聞くようにしてください。探求心を持ち、楽しく学びましょう。</p>
----------------	---

### 【使用教科書・教材・参考書】

教科書：柔道整復学理論編第6版（南江堂）、柔道整復学実技編第2版（南江堂）※実技編は必要な時のみ  
配布資料

## 名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	臨床柔道整復学Ⅰ ( Clinical Judo TherapyⅠ )	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	奥村 祐汰
学科	柔道整復科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分	2学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部					曜日・時限	水曜日 1・4限 151教室

### 【授業の学習内容】

伝統医療である柔道整復術を、基礎医学に基づき、科学的思考から考察するためには、『なぜ』を考える思考が大切になります。教科書を暗記して覚えるのではなく、疾患や症状について考え、理解をすることが柔道整復師として患者さんに接する際に必要となります。本授業では上肢の骨折、脱臼、軟部組織損傷について自分の身体を用いて立体的に捉え、患者さんへ施術・説明ができるようにしていきます。  
(柔道整復師専科教員資格取得教員)

### 【到達目標】

柔道整復師の業務範囲を踏まえ、その適応を理解し、基礎医学に基づいた理論で柔道整復師の治療法について説明できる。

### 授業計画・内容

1回目	前腕遠位端部骨折（スミス骨折の発生機序・症状）について説明できる
2回目	前腕遠位端部骨折（スミス骨折の整復法・後療法）について説明できる
3回目	前腕遠位端部骨折（掌側・背側 Barton骨折）について説明できる
4回目	前腕遠位端部骨折（ショウファー骨折・橈骨遠位骨端線離開）について説明できる
5回目	手根部の骨折（舟状骨骨折の概説・分類・症状）について説明できる
6回目	手根部の骨折（舟状骨骨折の合併症・整復法・固定法）について説明できる
7回目	手根部の骨折（三角骨骨折・有鉤骨骨折）について説明できる
8回目	手根部の骨折（豆状骨骨折・その他の手根骨骨折）について説明できる
9回目	手関節部の脱臼（遠位橈尺関節脱臼・橈骨手根関節脱臼）について説明できる
10回目	手関節部の脱臼（月状骨脱臼・月状骨周囲脱臼）について説明できる
11回目	手関節部の軟部組織損傷（三角線維軟骨複合体・ドケルバン病）について説明できる
12回目	手関節部の軟部組織損傷（キーンベック病・マーデルング変形）、注意すべき疾患（尺骨突き上げ症候群）について説明できる
13回目	2学期講義内容についてのワークを行い、より深い説明ができる
14回目	総復習し、2学期講義の総括について説明できる
15回目	総復習し、2学期講義の総括について説明できる

準備学習 時間外学習	予習：柔道整復学理論編の該当単元を目を通してから講義に臨むこと。 復習：講義ノートや講義内容、配布プリントをまとめることにより理解を深めること。
---------------	---

評価方法	1. 定期試験％ 2. 小テスト％ 3. レポート％ 4. 課題成果％ 5. 授業態度％	<small>評価方法はGPA制度となります</small> 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	筆記試験100%（状況により、小テスト・授業態度を考慮することがある）
------	--	--	-------------------------------------

受講生へのメッセージ  
 柔道整復学は国家試験の出題数も多く、重要な科目です。柔道整復学の出題範囲は広く、苦手意識がつくこともあります。イラストやシェーマを書いて立体的に考えていくことが習得するために重要です。わからないことや、疑問に思うことは担当教員まで聞くようにしてください。探求心を持ち、楽しく学びましょう。

### 【使用教科書・教材・参考書】

教科書：柔道整復学理論編第6版（南江堂）、柔道整復学実技編第2版（南江堂）※実技編は必要な時のみ

配布資料

## 名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	臨床柔道整復学Ⅰ ( Clinical Judo Therapy Ⅰ )	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	奥村 祐汰
学科	柔道整復科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分	3学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部					曜日・時限	Mar-34

### 【授業の学習内容】

伝統医療である柔道整復術を、基礎医学に基づき、科学的思考から考察するためには、『なぜ』を考える思考が大切になります。教科書を暗記して覚えるのではなく、疾患や症状について考え、理解をすることが柔道整復師として患者さんに接する際に必要となります。本授業では上肢の骨折、脱臼、軟部組織損傷について自分の身体を用いて立体的に捉え、患者さんへ施術・説明ができるようにしていきます。  
(柔道整復師専科教員資格取得教員)

### 【到達目標】

柔道整復師の業務範囲を踏まえ、その適応を理解し、基礎医学に基づいた理論で柔道整復師の治療法について説明できる。

### 授業計画・内容

1回目	手・指部の解剖と機能、組織の復習について説明できる
2回目	中手骨の骨折（骨頭・頸部）について説明できる
3回目	中手骨の骨折（骨幹部・第1中手骨基部・第5中手骨基部）について説明できる
4回目	指部の骨折（基節骨骨折）について説明できる
5回目	指部の骨折（中節骨骨折）について説明できる
6回目	指部の骨折（末節骨骨折）について説明できる
7回目	手根中手関節の脱臼をについて説明できる
8回目	中手指節関節脱臼（第1指MP関節・第1指以外のMP関節）について説明できる
9回目	近位指節間関節脱臼（PIP背側脱臼）について説明できる
10回目	近位指節間関節脱臼（PIP掌側・側方）、遠位指節間関節脱臼について説明できる
11回目	指側副靭帯損傷（第1MP関節側副靭帯・第1指以外のPIP関節側副靭帯）について説明できる
12回目	ロッキングフィンガー（第1MP関節・第2～5MP関節）、ばね指について説明できる
13回目	ヘバーデン結節、ボタン穴変形、スワンネック変形について説明できる
14回目	総復習し、3学期講義の総括について説明できる
15回目	総復習し、3学期講義の総括について説明できる

準備学習 時間外学習	<p>予習：柔道整復学理論編の該当単元を目を通してから講義に臨むこと。</p> <p>復習：講義ノートや講義内容、配布プリントをまとめることにより理解を深めること。</p>
---------------	--

評価方法	1. 定期試験% 2. 小テスト% 3. レポート% 4. 課題成果% 5. 授業態度%	<small>評価方法はGPA制度となります</small> 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	筆記試験100%（状況により、小テスト・授業態度を考慮することがある）
------	--	--	-------------------------------------

受講生へのメッセージ  
 柔道整復学は国家試験の出題数も多く、重要な科目です。柔道整復学の出題範囲は広く、苦手意識がつくこともあります。イラストやシェーマを書いて立体的に考えていくことが習得するために重要です。わからないことや、疑問に思うことは担当教員まで聞くようにしてください。探求心を持ち、楽しく学びましょう。

### 【使用教科書・教材・参考書】

教科書：柔道整復学理論編第6版（南江堂）、柔道整復学実技編第2版（南江堂）※実技編は必要な時のみ

配布資料

## 名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	臨床柔道整復学Ⅱ ( Clinical Judo Therapy Ⅱ )	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	山口 智一
学科	柔道整復科	授業 形態	講義	総時間	30	開講区分	1学期
コース	I部・II部			(単位)	(2)	曜日・時限	土曜日 152教室

### 【授業の学習内容】

柔道整復師が実際に触れる頭部・体幹外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わる者として高度の医学的知識の習得が必要であることから、業務として扱う頭部・体幹外傷について理論を理解し、本講義修了時には各頭部・体幹外傷について説明ができるようになる。

\* 実務経験：7年以上専門学校の教育現場に従事し、また接骨院の施術にも従事していた。

### 【到達目標】

柔道整復学で重要な頭部・体幹外傷の基本的な知識を修得するとともに、国家試験に必要な知識または臨床現場でも必要な知識を講義内に入れ、将来柔道整復師として業務するあたりその知識が発揮できるように習得させていく。

#### 【具体的な目標】

- ①頭部・体幹外傷の概要が説明できる。
- ②頭部・体幹外傷の内容の理解がさらに深められ習得できるようにする。

### 授業計画・内容

1回目	頭部・顔面の機能解剖、頭部・顔面部の骨折を説明できる
2回目	頭部・顔面部の骨折を説明できる
3回目	顎関節脱臼を説明できる
4回目	頭部・顔面部の軟部組織損傷を説明できる
5回目	頸椎の機能解剖、頸椎の骨折を説明できる
6回目	頸椎脱臼・頸椎の軟部組織損傷を説明できる
7回目	頸椎の軟部組織損傷を説明できる
8回目	胸・背部の機能解剖、胸部の骨折を説明できる
9回目	胸椎の骨折・脱臼を説明できる
10回目	胸・背部の軟部組織損傷を説明できる
11回目	腰部・仙骨部の機能解剖、腰椎の骨折・脱臼を説明できる
12回目	腰部の軟部組織損傷を説明できる
13回目	腰部の軟部組織損傷を説明できる
14回目	総復習し、1学期講義の総括について説明できる。
15回目	総復習し、1学期講義の総括について前回より詳しく説明できる。

#### 準備学習時間 外学習

- 【予習】 事前に教科書を熟読し、わからない単語を調べておく。  
【復習】 配布した復習問題や配布資料の内容をまとめ理解を深める。

#### 評価方法

- |   |  |
|---|--|
| 1. 定期試験80%<br>2. 小テスト20% 3. レポート0% 4. 課題成果0%<br>5. 実地試験0% | 評価方法はGPA制度となります<br>100～90点 S<br>89～80点 A<br>79～70点 B<br>69～60点 C<br>59点以下 F不合格 |
|---|--|

#### 受講生へのメッセージ

柔道整復学は国家試験の中で最も出題数が多い科目で、臨床現場でも最も重要な科目となります。この科目が疎かになると今後の勉強等が大変困難となるとお思いますので、大変だと思いますがしっかりと勉強していきましょう。

### 【使用教科書・教材・参考書】

教科書：柔道整復学理論編第6版(南江堂)、柔道整復学実技編第2版(南江堂)配布資料

## 名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	物理療法の取り扱い (Treatment of physical therapy)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	坂口 聡
学科	柔道整復科			総時間	15	開講区分	3学期
コース	I部・II部コース	授業形態	講義	(単位)	1	曜日・時限	月・火曜日 実技実習室

**【授業の学習内容】**  
 2・3年生に行われる臨床実習に対応できるように物理療法における患者対応や説明の仕方を習得する。なお、さまざまケースを想定し、物理療法機器の取り扱い方法を実践にて習得する。  
 なお、物理療機器を狙った部位に正確にセットできるようにするために体表解剖を習得する。  
 ※平成22年4月～平成26年3月まで整形外科医院・接骨院で勤務(主業務:疾患や外傷に対する後療法)  
 ※平成25年10月に柔道整復師専科教員免許を取得

**【到達目標】**  
 これから始める臨床実習に困らないように、最低限の基本的な物理療機器の取扱いとその効果を説明できるように習得する。目標① 患者に物理療法の効果と禁忌の説明ができる。  
 目標② 各物理療機器の操作方法の説明ができる。  
 目標③ 臨床実習前の患者対応を身につけることができる。

### 授業計画・内容

1回目	各物理療法の概要を説明できる。
2回目	適切なアイシングの実践と冷電法の効果を説明できる。
3回目	干渉波の取扱を実践と電気療法の効果を説明できる。
4回目	赤外線・極超短波等の温電法の効果を説明できる。
5回目	超音波の取扱を実践とその効果を説明できる。
6回目	牽引療法(頸椎牽引・腰椎牽引)の効果を説明できる。
7回目	実際の損傷を想定して、患者対応や物療機器の取扱いの対応の説明ができる。
8回目	物理療機器の取扱いの実習に向けての患者対応の仕方を理解説明できる。
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	

準備学習時間  
外学習

(目標①) 前提:この授業を受けるには、1年次に学習した物理療法の基礎知識が最低限必要です。  
 (目標②) 講義の中で取ったメモをしっかりとノートにまとめ復習は必要です。  
 (目標③) 体表解剖は解剖学の筋の起始停止、作用、走行の知識の復習が必要です。

評価方法	1. 定期試験(%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	外部臨床実習で対応できるように実地試験を実施。 ●実地試験100%
------	--	--	--------------------------------------

受講生へのメッセージ

1年次に学習した物理療法の知識を実際にどのように活用するのか、また、実際に機器の使い方、仕様は学習していないので、欠席しないでください。臨床実習も見据えて講義にするので、必ずバインダー等を持参しメモを取り復習しながらまとめるようにしてください。講義時間内だけでは機器取扱いをマスターするのは難しいので補講も考えています。追って連絡します。

**【使用教科書・教材・参考書】**  
 教科書:柔道整復学・理論編改訂第6版.南江堂、配布授業プリント



## 名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	柔道整復実技 I (Clinical Practice 1)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	米女 博司
学科	柔道整復科			総時間	45	開講区分	2学期
コース	I部・II部	授業形態	講義・演習	(単位)	(1)	曜日・時限	金曜日 実技実習室

### 【授業の学習内容】

肩腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷、大腿部・下腿部損傷、膝部損傷及び足関節外側靭帯損傷について学習する。  
 各外傷の模擬検査を行うにあたり、臨床に即した手順を踏んで模擬整復を行う。1、来院肢位の確認 2、発生機序の聴取 3、患部の確認 4、合併損傷の有無の確認 5、検査を実施 6、検査結果の評価 7、合併損傷の再確認  
 授業ではそれぞれの外傷部位の局所解剖を確認し、どのような外力がどのように影響して、どのような外傷が発症するのかを考えながら模擬整復を行う。授業で行うのは模擬整復であるが、できる限り本物の外傷を扱っていることを考え、イメージしながら行うことが重要である。  
 (柔道整復専科教員免許取得教員)

### 【到達目標】

- ・損傷部位の局所解剖を理解する。
- ・模擬検査終了までの手順を理解する。
- ・各種検査の患者への説明、助手への指示を行いながら、流れを説明できるようになる。

### 授業計画・内容

1回目	コーレス骨折 - 橈骨遠位端部の局所解剖、機能解剖を理解し、コーレス骨折の理論を理解することが出来るようになる。		
2回目	コーレス骨折 - 橈骨遠位端部の局所解剖、機能解剖を理解し、コーレス骨折の理論を理解することが出来るようになる。		
3回目	コーレス骨折 - コーレス骨折の診察の流れ、診察、整復操作について理解して出来るようになる。		
4回目	コーレス骨折 - コーレス骨折の診察の流れ、診察、整復操作について理解して出来るようになる。		
5回目	腱板損傷 - 腱板損傷の診察の流れ、診察、検査法について理解して出来るようになる。		
6回目	腱板損傷 - 腱板損傷の診察の流れ、診察、検査法について理解して出来るようになる。		
7回目	上腕二頭筋長頭腱損傷 - 上腕二頭筋長頭腱損傷の診察の流れ、診察、検査法について理解して出来るようになる。		
8回目	上腕二頭筋長頭腱損傷 - 上腕二頭筋長頭腱損傷の診察の流れ、診察、検査法について理解して出来るようになる。		
9回目	大腿部四頭筋打撲 - 骨盤から大腿部の局所解剖、機能解剖を理解し、大腿四頭筋打撲など大腿部損傷の理論を理解することが出来るようになる。		
10回目	大腿部四頭筋打撲 - 上腕二頭筋長頭腱損傷の診察の流れ、診察、検査法について理解して出来るようになる。		
11回目	大腿部四頭筋打撲 - 上腕二頭筋長頭腱損傷の診察の流れ、診察、検査法について理解して出来るようになる。		
12回目	ハムストリングス肉離れ - ハムストリングス肉離れの診察の流れ、診察、検査法について理解して出来るようになる。		
13回目	ハムストリングス肉離れ - ハムストリングス肉離れの診察の流れ、診察、検査法について理解して出来るようになる。		
14回目	試験範囲を総合的に復習し、診察の流れ、診察、検査法について理解して出来るようになる。		
15回目	第2学期学期末実技試験 評価解説する。		
準備学習 時間外学習	実技授業でにクラスメイトと模擬整復操作練習が出来るように、各外傷部位の局所解剖、整復理論をしっかり復習すること。 (局所解剖や整復理論を文字で理解することも大切であるが、実技授業では立体的視覚的に把握することが重要である。局所解剖や整復操作を描写するなどしてイメージ化する努力をする。)		
評価方法	実地試験(100%) 出席・欠席数を加味して評価する	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	
受講生へのメッセージ	実技の授業は局所解剖を理解し、理論を理解して初めてできるものである。基礎知識、理論の理解なしで実技を行うことは、一つのやり方をまるまる暗記することに過ぎない。各外傷の種々なケースにも対応していくためには局所解剖、柔整理論を理解し考えながら実技を行う必要がある。常に本物の外傷を扱っているイメージで実技授業に臨んでもらいたい。		

### 【使用教科書・教材・参考書】

教科書: 解剖学、柔道整復理論、柔道整復実技及び配布資料

## 名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	柔道整復実技Ⅱ ( Judo Therapy Practical Ⅱ )	必修選択	必修	年次	2	担当教員	小島 一政
学科	柔道整復科			総時間	90	開講区分	1学期
コース	昼間Ⅰ部・Ⅱ部	授業形態	実技	(単位)	(3)	曜日・時限	木曜日 実技実習室

### 【授業の学習内容】

1. 軟部組織損傷(下肢)の理論と実技: 下肢の軟部組織損傷について理論を学んだあと、固定法の実技を習得する。 2. 骨折実技の固定法: 主に認定実技項目に沿った実技を口頭で説明しながらできるようにする。\* 実務者経験: 1984年～1990年まで整形外科病院に勤務する。主業務は診察、外傷の整復・固定・リハビリテーションなど整形外科疾患の診察から治療までを一貫して行っていた。1990年～小島接骨院開院。近医との医接連携による外傷治療を行っている

### 【到達目標】

1. 軟部組織損傷(下肢)の理論と実技: 下肢の軟部組織損傷について説明できるようになる。またその固定法を口頭で説明しながらできるようになる  
2. 骨折実技の固定法: 主に認定実技項目に沿った実技を口頭で説明しながらできるようになる

### 授業計画・内容

1回目	大腿の肉離れ(理論)1 概論、特徴について理解し説明することができる	
2回目	大腿の肉離れ(理論)2 症状、治療法について理解し説明することができる	
3回目	膝関節の軟損(小児編)1について理解し説明することができる	
4回目	膝関節の軟損(小児編)2について理解し説明することができる	
5回目	膝関節の軟損(成人編)1について理解し説明することができる	
6回目	膝関節の軟損(成人編)2について理解し説明することができる	
7回目	膝関節の軟損(外傷編)1について理解し説明することができる	
8回目	膝関節の軟損(外傷編)2について理解し説明することができる	
9回目	下腿部の軟損(アキレス腱炎、周囲炎、アキレス腱断裂)について理解し説明することができる	
10回目	足関節の軟損(足関節外側靭帯損傷)について理解し説明することができる	
11回目	下腿部の軟損(アキレス腱炎、周囲炎、アキレス腱断裂)について理解し説明することができる	
12回目	1学期期末試験 膝関節・下腿部・足関節の軟部組織損傷について理解し説明することができる	
13回目	軟損実技(膝関節のXサポートテープ)について理解し実践することができる	
14回目	軟損実技(足関節のテーピング)について理解し実践することができる	
15回目	軟損実技試験 テーピング固定について理解し実践することができる	
準備学習時間 外学習	柔道整復理論第6版にて、基礎知識を予習しスムーズに実技が行えるようにしておくこと。	
評価方法	1. 定期試験(50%) 2. 小テスト(50%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格
実技試験100%		
受講生への メッセージ	実技の時は白衣、実技バッグ、シューズが必須です	

### 【使用教科書・教材・参考書】

教科書: 南江堂「柔道整復学・理論編」改訂第6版実技解説本



## 名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	柔道整復実技Ⅱ ( Judo Therapy Practical Ⅱ )	必修選択	必修	年次	2	担当教員	小島 一政
学科	柔道整復科			総時間	90	開講区分	2学期
コース	昼間Ⅰ部・Ⅱ部	授業形態	実技	(単位)	(3)	曜日・時限	木曜日 実技実習室

### 【授業の学習内容】

1. 軟部組織損傷(下肢)の理論と実技: 下肢の軟部組織損傷について理論を学んだあと、固定法の実技を習得する。 2. 骨折実技の固定法: 主に認定実技項目に沿った実技を口頭で説明しながらできるようにする。\* 実務者経験: 1984年～1990年まで整形外科病院に勤務する。主業務は診察、外傷の整復・固定・リハビリテーションなど整形外科疾患の診察から治療までを一貫して行っていた。1990年～小島接骨院開院。近医との医接連携による外傷治療を行っている

### 【到達目標】

1. 軟部組織損傷(下肢)の理論と実技: 下肢の軟部組織損傷について説明できるようになる。またその固定法を口頭で説明しながらできるようになる  
2. 骨折実技の固定法: 主に認定実技項目に沿った実技を口頭で説明しながらできるようになる

### 授業計画・内容

1回目	骨折実技(理論)鎖骨骨折について理解し説明することができる	
2回目	骨折実技(理論)上腕骨骨幹部骨折について理解し説明することができる	
3回目	骨折実技(理論)コレス骨折について理解し説明することができる	
4回目	骨折実技(実技)鎖骨骨折のすだれ副子による固定について理解し説明することができる	
5回目	骨折実技(実技)鎖骨リングによる固定について理解し説明することができる	
6回目	骨折実技(実技)鎖骨骨折デゾー包帯による固定について理解し説明することができる	
7回目	骨折実技(実技)上腕骨骨幹部骨折のミッテルドルフ三角副子固定について理解し説明することができる	
8回目	骨折実技(実技)コレス骨折のクラーメル金属副子と三角巾による固定について理解し説明することができる	
9回目	骨折実技(理論)第5中手骨頸部骨折について理解し説明することができる	
10回目	骨折実技(理論)肋骨骨折について理解し説明することができる	
11回目	骨折実技(理論)下腿骨骨幹部骨折について理解し説明することができる	
12回目	骨折実技(実技)第5中手骨頸部骨折のアルミ副子掌側固定について理解し説明することができる	
13回目	骨折実技(実技)肋骨骨折の厚紙とさらしによる固定について理解し説明することができる。	
14回目	骨折実技(実技)下腿骨骨幹部骨折のクラーメル金属副子による固定について理解し説明することができる	
15回目	2学期期末試験について理解し説明することができる	
準備学習時間 外学習	柔道整復理論第6版にて、基礎知識を予習しスムーズに実技が行えるようにしておくこと。	
評価方法	1. 定期試験(50%) 2. 小テスト(50%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格
実技試験100%		
受講生への メッセージ	実技の時は白衣、実技バッグ、シューズが必須です	

### 【使用教科書・教材・参考書】

教科書: 南江堂「柔道整復学・理論編」改訂第6版実技解説本

## 名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	柔道整復実技Ⅱ ( Judo Therapy Practical Ⅱ )	必修選択	必修	年次	2	担当教員	小島 一政
学科	柔道整復科			総時間	90	開講区分	3学期
コース	昼間Ⅰ部・Ⅱ部	授業形態	実技	(単位)	(3)	曜日・時限	木曜日 実技実習室

### 【授業の学習内容】

脱臼と軟部組織損傷の理論と固定実技: 認定実技審査で行われる脱臼と軟部組織損傷の固定法について学ぶ。  
 \* 実務者経験: 1984年～1990年まで整形外科病院に勤務する。主業務は診察、外傷の整復・固定・リハビリテーションなど整形外科疾患の診察から治療までを一貫して行っていた。1990年～小島接骨院開院。近医との医接連携による外傷治療を行っている

### 【到達目標】

認定実技審査で行われる脱臼と軟部組織損傷の固定法が口頭で説明しながら時間内にできるようになる

### 授業計画・内容

1回目	肩鎖関節・肩関節脱臼・肘関節脱臼、第2指PIP背側脱臼の理論について説明し実践することができる	
2回目	脱臼実技・肩鎖関節脱臼のテーピングについて説明し実践することができる	
3回目	脱臼実技・肩関節脱臼の上行麦穂帯および三角巾固定について説明し実践することができる	
4回目	脱臼実技・肘関節脱臼のクラーメル金属副子固定について説明し実践することができる	
5回目	第2指PIP背側脱臼のクラーメル金属副子背側固定について説明し実践することができる	
6回目	脱臼実技試験1 総合演習ができる	
7回目	脱臼実技試験2 総合演習ができる	
8回目	軟損実技・アキレス腱断裂のクラーメル金属副子固定について説明し実践することができる	
9回目	軟損実技・足関節外側靭帯損傷の厚紙副子固定について説明し実践することができる	
10回目	3学期末試験 アキレス腱断裂・足関節捻挫に対する知識・理解度を確認する	
11回目	軟損実技試験1 軟部組織損傷に対する固定法を理解し、実践することができる	
12回目	軟損実技試験2 軟部組織損傷に対する後療法・指導法について説明し、指導できる	
13回目	復習1 肩関節・肩鎖関節脱臼について理解しており、整復・固定を実践することができる	
14回目	復習2 肘関節脱臼・第2指PIP背側脱臼について理解しており、整復固定法を実践することができる	
15回目	復習3 アキレス腱断裂・足関節内反捻挫に対して知識が見つけており、固定法を実践することができる	
準備学習時間 外学習	柔道整復理論第6版にて、基礎知識を予習しスムーズに実技が行えるようにしておくこと。	
評価方法	1. 定期試験(50%) 2. 小テスト(50%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格
実技試験100%		
受講生への メッセージ	理論は柔道整復学・理論編第6版で進めていきます。実技は実技解説本を参考に行っていただきます。必ず持参してください。実習は白衣、実技シューズ、実技バッグが必須です	

### 【使用教科書・教材・参考書】

教科書: 南江堂「柔道整復学・理論編」改訂第6版実技解説本

## 名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	高齢者・競技者の外傷予防 ( Trauma Prevention Technology for Elderly and Athletes )	必修選択	必修	年次	2	担当教員	加藤 雄大
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	30	開講区分	通年
コース	I 部・II 部			(単位)	(2)	曜日・時限	木曜日 152教室

### 【授業の学習内容】

競技者を治療するにあたって外傷の評価、処置、治療を行うだけでは競技復帰することが難しく、外傷予防や再発予防トレーニングを指導できることが必要である。国家試験に合格する為だけではなく、臨床に出てから競技者をサポートする上で必要な知識・技術を獲得し即戦力として活躍していくことを学習していく。また現代では超高齢化社会となり、高齢者の健康意識が高くなってきたため高齢者の外傷予防も学んでいく。

専科教員免許取得

### 【到達目標】

スポーツによってどのような外傷が起こるのかを知り、外傷を防ぐための正しいトレーニング・コンディショニングが出来るよう、自分の身体を使って覚え、自信をもってクライアントに説明できるようになる。高齢者の外傷を予防するために必要な知識を学ぶ。また、機能訓練指導員の業務内容も理解する。

目標

- ①基礎運動生理学を理解する。
- ②競技者や高齢者の外傷・予防について理解し、説明ができる。
- ③種目別の外傷予防について理解し、説明ができる。
- ④機能訓練指導員の業務内容について理解し、説明できる

### 授業計画・内容

1回目	メディカルチェック・コンディショニングについて理解し説明できる①
2回目	メディカルチェック・コンディショニングについて理解し説明できる②
3回目	外傷予防に必要な筋カトレーニングについて理解し説明できる①
4回目	外傷予防に必要な筋カトレーニングについて理解し説明できる②
5回目	柔道・水泳における外傷予防について理解し説明できる
6回目	バスケットボールにおける外傷予防について理解し説明できる
7回目	サッカーにおける外傷予防について理解し説明できる
8回目	転倒予防について理解し説明できる
9回目	事前アセスメント、事後アセスメントについて理解し説明できる
10回目	機能訓練指導員の業務内容について理解し説明できる
11回目	機能訓練の手順について理解し説明できる
12回目	機能訓練で提供する運動と要点について理解し説明できる
13回目	高齢者の外傷予防訓練について理解し説明できる
14回目	1～7回目講義の総復習を行い、知識を深め説明できる
15回目	8～13回目講義の総復習を行い、知識を深め説明できる

準備学習時間  
外学習

①教科書をベースに授業授業を進行していきます。教科書に一度目を通してください。  
②毎日の復習を怠らないようにして下さい。

評価方法	筆記試験(100%)	<small>評価方法はGPA制度となります</small> 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	●身だしなみ及び受講態度も評価に含む
------	------------	---	--------------------

受講生へのメッセージ  
スポーツ現場や介護現場などの臨床でも必要な知識がたくさんあります。卒業後を見据え、しっかり取り組みましょう

### 【使用教科書・教材・参考書】

教科書: 小林直行・高橋康輝著 競技者の外傷予防 医歯薬出版株式会社

## 名古屋医健スポーツ専門学校 2022年度 シラバス

科目名 (英)	臨床実習 I ( Clinical Training I )	必修選択	必修	年次	2	担当教員	米女 博司
学科	柔道整復科			総時間	90	開講区分	2学期
コース	I部・II部	授業形態	講義・演習	(単位)	(2)	曜日・時限	各曜日 実習先

### 【授業の学習内容】

学外実習を行います。  
 各々学生が配置された接骨院・施設に出向き、臨床勤務している柔道整復師の指導に基づき、実際に接骨院・施設で提供されている施術を見て学ぶ。  
 実習期間は12日間(1日8時間)

### 【到達目標】

- ① 医療従事者としての自覚を持ち、責任ある行動が出来る。
- ② 患者に対して適切な行動が出来る
- ③ 患者の抱える問題点に共感出来る。
- ④ 他者の意見を聞くことが出来る。
- ⑤ 自己の問題点、不足点を抽出し解決する方法を述べる事が出来る。

### 授業計画・内容

1回目	臨床実習の到達目標に加えて下記の内容を実施する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1 どのような施術をしているか理解し説明できる。                      高齢者・成人・小児とあらゆる年代の患者の施術を見学し理解することができる。</li> <li>2 臨床実習先での業務内容を理解し説明できる。                      各施設の業務内容を理解し将来の柔道整復師像を想像することができる。</li> <li>3 臨床実習先での柔道整復師の役割を理解し説明できる。                      資格の違いを理解し、他業種との連携を取ることができる。</li> <li>4 施術者が患者に対しどのような態度で接しているか理解し説明できる。                      患者とのコミュニケーションの取り方を理解し説明できる。</li> <li>5 初めて見る臨床現場に様々な気づきを感じ自分の学習目標を知ることができる。                      臨床現場で感じたことを整理し今後の学習課題を見つけていくことができる。</li> <li>6 施術前後の準備・片付け・掃除が率先してできる。                      準備・片付け・清掃の習慣をつけることができる。</li> <li>7 礼儀正しい挨拶ができる。                      スタッフ、患者への挨拶が積極的にできる。</li> <li>8 柔道整復施術所、医療機関とはどんなところか理解し説明できる。</li> </ol>
90回目	臨床実習先の施設を理解し柔道整復師としての将来を考えることができる。

準備学習時間  
 解剖学・生理学・運動学といった基礎科目を基に柔道整復理論や柔道整復学実技の知識の復習および評価や手技療法の復習を行っておくこと

評価方法	1. 定期試験(%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(50%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(50%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	レポート50%、課題成果50%
------	--	--	-----------------

受講生へのメッセージ  
 実習施設は学校と契約を交わし、愛知県に登録された施設で行う。  
 何が必要で何を求められているのか、指示されて動くのではなく予測して判断すること。主体的に取り組むこと。

### 【使用教科書・教材・参考書】

解剖学、生理学、運動学、柔道整復学(理論編)、柔道整復学(実技編)その他臨床に関する参考書